
理系の人々

5757

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

理系の人々

【Zコード】

N3872BA

【作者名】

5757

【あらすじ】

工業高校機械科に通う二谷継は、夏休み前の終業式の日に銃のようなもので撃たれる。
目を覚ますとそこは牢の中。
継はなんと異星にいた。

数学と物理しか勉強ができない高校生が奮闘するSFストーリー。

第1話 夏の始まり（前書き）

初投稿です。うまく書けてるか分かりません。誤字脱字などがあれば教えて欲しいです。

第1話 夏の始まり

七月二十一日。

「お前ら夏休みでハシャぐのはいいけど、ちゃんとバレないよ！」
「しろよー？あと課題も一応やれよー？」担任の教師がこんなことを
言っていた。

「それは教師としてどうかと思いまーす。」と女子生徒が笑いながら言つた。

「立派なやうなら、立派なやうにならへ」

号令が終わると共に、教室内がガヤガヤし始める。この後の予定やら夏休みの計画やらでみんな楽しそうだ。

話しかけてきたのは友人の義人だつた。継と言うのは俺、三谷継の事だ。俺、悟、義人は中学からの親友である。

悟は「どうでもいい」と呟いて、帰る準備を始めた。

「あ、わりい。俺今日バス」と俺が返すと、義人は

「なん……だと……ー。お前まさか予定があるってのか……？」
ハツ！？彼女ができたのか！？そつなのか！？ くつソリア充め！
！顔面滅びろ！……」なんてことを叫びてきた。

「滅びろ」ボソッと悟も呟く。

「いやいやいや違つからー！やめろお前ひ、祈禱を始めるんじゅねえ！？呪いでもかける氣か！？」

「こんなだから『イツらむてないんじゅ？』と正直思つてしまつ。人のこと言えないけど。

「さつさと家に帰つて部屋を片付けたいだけだつて。夜中に飼い猫が紙を散らかしまくつてたみたいでさ、朝見たらひどい惨状だつた。」と、事実を述べると、

「そつなりそつと言えよー。お前を拷問にかけるといひだつたじやないか。」つておじ。

「カラシと怖こじりと叫んでるじゃねえよ……。」呆れつづけつた。

「そつこじりとならまた今度な。メールすつかりー・じゅ あなー！」
「またね」義人と悟が言つ。

「おー。じゃあまたな。」と返し、教室を出た。

所変わつて、建物が密集する通りに来ていた。家に帰るにはここを通るのが最短ルートだが、アスファルトからの熱でうだるような暑さだった。

「暑……」

文句が自然と出た。涼みに店に入るにも、正直この汗の量で気が引ける。ということで、路地裏で涼むことにした。

こいつの時、日陰は日なたよりも4、5 気温が低い。逃げるように路地裏に滑り込んだ。

今まで入つたことのない、やたらに入り組んだ路だった。しばらく進むと、やたらと開けている10メートル四方くらいの場所に出た。

その時。

上から吊きつけるような風が吹いた。

「ひー？」 思わず田を開じる。

吹き下ろしてくる風の中、なんとか田を開ける。上をみるとそこには、なにか透明なものが浮かんでいた。

はつきりとは見えないが、粉塵や砂ぼこりでそこには「何か」があるところのは分かった。

風は立つていられないほどに強くなり、再び田を開じる。

機械音と共に風が弱くなつた。立ち上がり田を開けると、そこには信じられない物があつた。

銀色の
田盤。

一般的に「OFFICE」と呼ばれるようなそれが田の前の空間にあつた。

プシュ、という音と共に、円盤の側面が開いた。

宇宙人らしき人影がゆっくりと出てくる。

(うつお！？宇宙人襲来！？地球侵略！？人類滅亡！？)
の中をあらゆる不吉な考えが巡る。

継の頭

おずおずと宇宙人らしき人影の顔を見て、継は思った。

(あ…………かわいい…………！－！)

茶髪でショートカットの美少女がそこには居た。

少女が伸びをして、嬉しそうに座った。

「…………やつた。…………やつと着いたあ…………」

言葉を発すると同時に、腰の後ろ付近で何かが揺れる。

継はそれを見て思わず叫んだ。

「……尻尾おおおおおおお……?……?……?」

少女の尻尾は左右にゅうくつと動いていた。

声に驚いた少女が継の方を見る。

「ああああああああ！…見つかっちゃった！…！？」

叫ぶ少女が何かを取り出した。

(はっ！？なんだあれ、銃か！？)

銃のようなものを少女が両手で支え、継に向けている。

やめろ、と言つ間もなく、継の身体は光に包まれ、意識を失った。

第1話 夏の始まり（後書き）

今後不定期気味に投稿していく予定です。

第2話 牢の中（前書き）

続きを読む方法がいまいち分かりません…… o r z

第2話 牢の中

田を覚ますと、周りを柵で囲まれていた。

といふか。

牢の中、だった。

「うああああああああつー？」飛び起きながら叫んだ。

周りに人が居るらしい、ザワザワし始める。

……なんか……動物園の虎みたいな気分になつてきた……。

ふと外に目をやり、集まる人々を見る。

混乱していくうちに低い声が響いた。

もう何がなんだか……意味が分からぬよ……

……先ほどの少女と同様、皆さん尻尾が生えてらっしゃる……それと……耳も。

「…起きたか… 地球人…。」

声がする方を見ると、威厳をオーラの「」とく放つおじいさんがいる。

足元から腹…顔へと視線を移す…。

「ぶつぶおーっ」思わず噴き出しちゃった。

その理由は……彼の頭の上。

ウサ耳 だった。

「……笑うな……」険のある声で怒鳴られる。

「す……すいません……。今は……不意打ちすぎつ……」必死に笑いを堪えながら言つ。

「……突然で悪いが、お前には死刑になつてもらひ。」

「…………はーーー?」

何言つてんだろう、この人。

「え？え！？全然話が見えないんですけど！？ていうかまずこじりどこ！？なんで俺牢に入れられてんの！？死刑って何！？」軽いパニック状態で矢継ぎ早に質問する。

「……うるさい奴だ……まあいい。まずは一つ田の質問に答えてやる
う。」

一呼吸おいて、口を開く。

「(1)は地球ではない。銀河系の惑星、アグライア。あ、ちなみに
私は(1)の星の最高議長のネルだ。」

「え……地球じゃ……ないの……ー?……じゃあ俺なんていりにゃれるの?
?」

「お前は……獸耳が無い少女に会つたか……?」

ハッとかぬ。「あ……はい……会いました。尻尾はありましたね」

はあ、とネルが溜め息をつく。

「その少女が原因だ。…恐らく、銃のような物で撃たれただろうつ？」

「あ……はい、そうです。……でも……俺がここにいるのと何の関係が？」
疑問に思ったことを投げかける。

「……それは物質転送装置なのだ。あれだ、俗に言つて『ワープ』のための道具だ。」

「えー？ ワープ！？」 なんですか。某戦艦のあれですか。

「…動搖しておるな。まあいい、この辺で、死刑の話に戻るか。」

あ

死刑

第2話 牢の中（後書き）

死刑
(ミサ風)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3872ba/>

理系の人々

2012年1月10日22時52分発行